



枝珊瑚珠
三





一 理朽世思案

宜



あり人麦飯の一汁一菜はゆきまそ近
 う人を~~お~~舞^ま踊^りるやとすく領理出^りたり
 一^は五月^{さつき}るるも笋^{たけのこ}菜^なより汁^{じゆ}なり
 二十^はかりの男^{おとこ}たちの蓋^{ふた}とすりもさ菜^{さい}の
 食^けとすりてつ^つと^ととれしく物^{もの}なり
 食^けより^{より}冷^{ひや}く^くなりてい^いま^まも^もは^はい^いあり
 ずりとえはい^いさ^さろ^ろは山^{やま}乃^のサ^サテ^テて^ては^はなり
 と云^いま^まく^くとい^いま^まん^んうん^{うん}よ^よま^まい^いま^まサ^サテ

ろいて二十とのゆりとのぬちかひとよろこびて
 ういどやうさむぢなぬあり有むるぬはひ
 やと下ざぬぬちかひは舞代乃久美を
 候をさるぬくさうりてかちと目か
 わりぬいさうさるぬちかひは舞代乃久美
 せとさるぬ二十と延とちんぬぬぬぬぬ
 百とさるぬとけちんぬぬぬぬぬぬぬぬ
 ころりとちんぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 四 ちんぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 山ろゆりぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ



けるト谷池のともは霞をわやのまけ
の大楽院山 常陸よりけり通ふ石橋よ
兵次お通とわとめく今日ハ藤天よりて茶窓
の雲あけくるわとけり色屋よ足をととを
栄茂とま見とせんと浅草舟よ寝をまや
あ真士山乃月とから今戸川のゆき津よ
せまりわとささつと船宿よはけと戸よれ
上茂うとれよゆとあひん坂とむきけりうと
まうやきとよ大にけり戸二丁目さる所
角町とん丁京町乃と通とまうとあれ丁

之通ちちのよ侍人乃过上屋所と角
よ門とけり言とあつと振氣の花いとあわと
衣乃けとけり山とてあつてあけりうと

の一句

太夫搦子やあ言葉

青陽の朝より高尾のりらにはつとあや
やうとあつとけりうと照つとあつとけり
まはとあつとけり雲よななとけりあわいのと
わつとあつとけりなげんごよけりお福んきあつと
んとあつとけりそのおあつとけりあはげよと
やうのあつとけり小紫のいつとあつとけり

我々より。あるらんちやうの西屋の裏。これ我國
 のまわ物と。我國までもゆき。志望地。この此山戸
 とは。ちやうてある甚清志。花とふんてハたすく
 あり拍子。さうむとわけてはよき。一千年乃
 名。我哥山の。ちやうてとふりかたの朝方ハ。この
 そろろは。丹良と。いふて。さうは。はるる。むと。さ
 ま。こは。小著作の。月をむりや。水更級。ふま。むり
 自菊は。ふも。常盤の。我哥叔と。ゆき。れ。う。う。う。ま
 ち。む。梅。枝。は。あ。う。う。を。四。本。の。さ。う。う。う。あ。い。の。所。
 ね。ま。の。花。星。と。は。ゆ。き。ま。の。物。て。ハ。さ。う。あ。は。さ。う。ね





